

1. エンジンコンプレッサ

エンジンコンプレッサは可搬性に優れ、一般の土木工事、建設、道路工事など電源設備のない現場や移動する現場のエアースourceとして使用されてきました。しかし、最近ではこれらの現場に止まらずゴルフ場やスキー場などのレジャー産業、更には工場での経済的な受電契約のためにエンジンコンプレッサを運転するなど、幅広く使用されています。

デンヨーは昭和 47 年、こうした需要予測と年々問題となってきた騒音公害に対処した、防音構造のエンジンコンプレッサ(ベーンロータータイプ)を発表しました。

また、昭和 56 年にはスクリータイプの圧縮機を搭載したスクリーシリーズを発表、「青いコンプレッサ」として大好評を得ました。昭和 63 年には、操作性と整備性を追求したボンネット構造と新開発の圧力制御機構による省エネ・低騒音を実現したニューDPS シリーズを発表しました。また、平成 5 年 7 月には大気汚染防止の指針となるカリフォルニア州の大気汚染規制をクリアしたエンジンを搭載した DPS-SP(B)シリーズを発表しました。DPS-SP(B)シリーズは、ニューデザインにより、一層の小型・軽量化と整備性を追及したものです。

最近の市場ニーズは、大容量化と高圧化を指向しており、平成 9 年 10 月 2 日世界最大手のコンプレッサメーカーでもあるインガーソル・ランド社の高効率エアエンドを採用し、デンヨーが永年にわたって培ったノウハウを駆使して市場のニーズを最大限に折り込み、安全性をはじめとして、操作性、耐久性などあらゆる面を考慮した「DIS シリーズ」を発表しました。

また、平成 14 年 2 月には小型機へのアフタクーラ搭載機 DIS-180AC を発売し、シリーズ化を図り、平成 19 年 8 月には業界初の吐出空気圧力を任意に設定可能なバリエーションタイプのエンジンコンプレッサ DIS-200VPS を発表し、シリーズ化をしました。さらに、平成 24 年 7 月には、アトラスコプコ社の高効率エアエンドを採用した「DAS シリーズ」の発表をしました。